



道経一体 経済・経営シンポジウム in 東京 紙上採録 開催

過去から未来へ志をつなぐ 「三方よし」と持続可能な経済・経営を考える

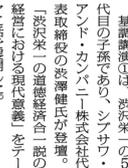
今年、創立100周年を迎えた公益財団法人モラロジー道徳教育財団は、記念事業の一環として1月24日、「道経一体 経済・経営シンポジウムin東京」を東京都内で開催した。当日は「社会の幸福を実現する『三方よし』と持続可能な経済・経営について考える」をテーマに、基調講演やパネルディスカッションを展開。会場を埋めた企業経営者ら約380人は、「道徳経済一体」の精神が、企業の持続的発展と社会の安心・平和・幸福につながることに理解を深めた。

基調講演①



廣池 幹堂氏 モラロジー道徳教育財団理事長
「道経一体」は、道徳と経済の両輪を軸として、社会の幸福を実現するための経営哲学です。創業者の志を継ぎ、未来へつなぐ責任を担います。

基調講演②



大野 正英氏 慶応大学経済学部教授
「道経一体」と「三方よし」は、現代社会における持続可能な経営の基盤です。道徳を軸とした経営が、社会の発展と個人の幸福をもたらします。

基調講演③



伊沢栄一氏の道徳経済合一説の経営における現代意義
「道徳経済合一説」は、利益と道徳の両立を追求する経営哲学です。現代社会において、持続可能な成長を実現するための重要な指針となります。

基調講演④



大野 正英氏 慶応大学経済学部教授
「道経一体」と「三方よし」は、現代社会における持続可能な経営の基盤です。道徳を軸とした経営が、社会の発展と個人の幸福をもたらします。

「道経一体」と「三方よし」が現代に問うもの
大野氏は、両者が本質的に共通するものであると指摘し、道徳と経済は本来一致する存在であるという考え方を述べた。彼は、道徳を軸とした経営が、社会の発展と個人の幸福をもたらすことを強調した。また、道徳と経済の両立を追求する経営哲学が、現代社会における持続可能な成長を実現するための重要な指針となることを述べた。

道経一体の経営を実践し、人々との絆を未来へつなぐ

「道徳経済一体(道経一体)」は、創業者・廣池千九郎が説いた道徳科学(モラロジー)に基づく経済・経営に関する思想です。人間の生活は、精神生活と物質生活から成り立っており、精神生活の法則は道徳であり、物質生活の法則は経済です。一枚の紙の裏裏が一体であるように、本来、道徳と経済の関係も一体です。この道経一体の経営は、すべての根元に品性を置く経営であり、したがって「人づくり」を重んじ、「品性資本」に基づく経営を行い、永続を目指して「三方よし」を心がけます。この「人づくり」「品性資本」「三方よし」が、道経一体経営に基づく3つの柱になります。企業が長期的かつ安定的に発展するには、どのような時代や国家、社会状況においても、この道経一体の法則を理解し実践することが大切であると廣池千九郎は説いています。

「道経一体経営が目指すもの」
「道徳経済一体(道経一体)」は、創業者・廣池千九郎が説いた道徳科学(モラロジー)に基づく経済・経営に関する思想です。人間の生活は、精神生活と物質生活から成り立っており、精神生活の法則は道徳であり、物質生活の法則は経済です。一枚の紙の裏裏が一体であるように、本来、道徳と経済の関係も一体です。この道経一体の経営は、すべての根元に品性を置く経営であり、したがって「人づくり」を重んじ、「品性資本」に基づく経営を行い、永続を目指して「三方よし」を心がけます。この「人づくり」「品性資本」「三方よし」が、道経一体経営に基づく3つの柱になります。企業が長期的かつ安定的に発展するには、どのような時代や国家、社会状況においても、この道経一体の法則を理解し実践することが大切であると廣池千九郎は説いています。

公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 <https://edu.morology.jp/100th-dohkei/>

広告 (企画・制作/産経新聞社メディアビジネス局)